

**平成28年度 山形県公立大学法人**  
**第5回経営審議会**  
**第5回教育研究審議会(米沢栄養大学)**  
**第5回教育研究審議会(米沢女子短期大学)**  
**議事録**

1 日 時 平成29年3月7日(火) 14:00～16:30

2 場 所 D号館 2階会議室

3 出席者

**<経営審議会>**

(出席) 学内委員：鈴木理事長、大和田理事、高橋理事、馬場理事、菌部理事、井上理事  
学外委員：種村理事、宮原委員、黒田委員

(欠席) 学外委員：菅原理事

※委員10名中9名出席、定款第16条の規定により会議成立

**<教育研究審議会(米沢栄養大学)>**

(出席) 学内委員：鈴木学長、大和田理事、高橋理事、鈴木委員、山田委員

(欠席) 学外委員：菅原理事、吉池委員、川崎委員

※委員8名中5名出席、定款第20条の規定により会議成立

**<教育研究審議会(米沢女子短期大学)>**

(出席) 学内委員：鈴木学長、馬場理事、菌部理事、鈴木委員、伊豆田委員

学外委員：飯塚委員、荒井委員

(欠席) 学外委員：菅原理事

※委員8名中7名出席、定款第20条の規定により会議成立

**<監事>**

(出席) 山上監事

(欠席) 五十嵐監事

**<事務局職員>**

(出席) 佐藤次長、四柳課長、樋口専門員、飯澤主査、阿部主査

4 理事長(兼)学長あいさつ

- 米沢栄養大学については、設置認可の申請どおりに年次推移している。
- 山形県栄養士会会長にエンプロイメントアドバイザーとして就職に関する個別指導を精力的に展開していただいている。県内の病院、自治体に管理栄養士の受け皿づくりも進めている。
- 山形大学とは、これまで「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(連携型)」や「大学の世界展開力強化事業」、「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」で連携してきており、今年度新たに「地域科学技術実証拠点整備事業」が文部科学省に採択された。
- 米沢栄養大学では大学院設置に向け準備を進めており、間もなく認可申請を行う。
- 米沢女子短期大学の重要課題である将来構想については、副学長を中心に検討を重ねている。

5 議事録署名員の指名

鈴木理事長から、馬場委員(経営審議会)、高橋委員(教育研究審議会[栄養大])、飯塚委員(教育研究委員会[米短大])の3名が議事録署名員に指名された。

6 報 告

(1) 平成29年度入試について

事務局から報告資料1により報告がなされた。

(2) 平成28年度卒業予定者の進路状況について

事務局から報告資料2により報告がなされた。

荒井委員から、米沢女子短期大学の就職率の算定に進学希望者が含まれているのかについて質問があり、佐藤事務局次長から就職希望者だけである旨回答がなされた。

また、鈴木理事長から、進学希望者が進学を諦めて就職に切り替えることにより分母が変わり、それにより就職率も若干下がる可能性がある旨発言がなされた。

さらに、馬場理事から、現時点ではどの程度の学生が就職に切り替えるのかは申し上げられない旨発言がなされた。

荒井委員から、合格者のうち入学しない者の進路先について質問があり、馬場理事から、成績上位者が4年制大学に進学する傾向が強く、米沢女子短期大学を第1志望としている受験生はそれ程多くはない旨回答がなされた。

さらに、荒井理事から、歩留まりを見込んで合格者を決定するのは難しい判断である旨発言があり、馬場理事から、入試委員会において、例年4割から6割の間で推移していること、受験者の在籍している高校を手掛かりに、歩留まりを決定している旨回答がなされた。

また、鈴木理事長から、AO入試、自己推薦入試、学校長推薦入試の合格者は全員入学してくることを前提としており、一般入試による選抜については、毎年、難しい判断を求められている旨発言がなされた。

## 7 協 議

### (1) 平成28年度 補正予算(案)について

事務局から協議資料1により説明がなされ、案のとおり承認された。

### (2) 平成29年度 年度計画(案)及び当初予算(案)について

事務局から協議資料2-1、2-2により説明がなされ、案のとおり承認された。

### (3) 教員(米沢女子短期大学 英語英文学科)の昇任について

事務局から協議資料3-1、3-2により説明がなされ、案のとおり承認された。

種村理事から、平成29年度当初予算の収入のうち「その他交付金」は、退職手当により24,683千円増額となっており、一方、支出のうち「人件費」は、退職手当により36,025千円増額となっているが、この差額は「その他交付金」に含まれる高額修繕、臨時経費が減額されたことによるものか質問があり、四柳総務企画課長から、左様である旨回答がなされた。

宮原委員から、平成29年度当初予算の収入のうち「外部資金」の受託研究収入は大学の魅力度のバロメーターとも言え、大学の魅力向上のため確立していくことが必要なものであって、予算額ゼロには違和感がある旨発言があり、四柳総務企画課長より実績に基づき計上しているものである旨回答がなされた。

また、鈴木理事長から、補正予算で計上していく旨発言がなされた。

宮原委員から、結果として補正予算に計上するものではなく、当初予算の段階から大学として目標を掲げ、戦略的に捉えていく姿勢が必要である旨発言があった。

これに対し、荒井委員から、計画として計上しておくことは刺激にもなり、対外的なアピールにもなるが、現実的には受託研究資金などは保障できない部分もあり難しい。受託研究に教員の労働力が割かれ、非常勤講師も雇い入れないといけない。クライアントが企業の場合では成果を厳しく求められ、教員が授業や学生指導に時間を割けなくなる。受託研究は大学の振興のためには重要であるが、財政的には必ずしもプラスに働くかものではなく現実的には問題が残る部分がある旨発言がなされた。

また、高橋理事から、受託研究については委託者側の意思によるところが大きく、方針が途中で変わってしまい、予算を計上しても結果的にゼロとなる可能性がある旨発言がなされた。

さらに、荒井委員から、競争的資金の獲得にしても、人を雇い入れると人件費が固定費として発生し続ける。プロジェクトが終了しても解雇することができず、研究員として雇用し続けることとなり、経費的には赤字になってしまう旨発言がなされた。

飯塚委員から、山形大学工学部では競争的資金を獲得した場合、報告書やサイトビジットへの対応などに対応するため人を雇い入れる場合、任期付きの個別契約としているため問題は発生しない。企業との共同研究ではそれほど大きな額のを契約しておらず、負担が少なく進めやすい。寄付金で気を付けないといけないことは、対価のない寄付者との明確な関係構築が大切である旨発言がなされた。

宮原委員から、企業との共同研究は学生のモチベーションを高めていくうえでも重要であり、企業に対してプロポーザルを出していけるくらいの戦略を立てていくことが必要である旨発言が

なされた。

**(4) 教員(米沢女子短期大学 社会情報学科)の昇任について**

事務局から協議資料4-1、4-2により説明がなされ、案のとおり承認された。

**(5) 山形県公立大学法人規程の一部改正及び制定について**

事務局から協議資料5-1～5-5により説明がなされ、案のとおり承認された。

**(6) 山形県立米沢栄養大学規程の制定について**

事務局から協議資料6により説明がなされ、案のとおり承認された。

**(7) 山形県立米沢女子短期大学規程の一部改正について**

事務局から協議資料7により説明がなされ、案のとおり承認された。

**(8) 山形県立米沢栄養大学の大学院設置認可申請について**

事務局から協議資料8により説明がなされ、案のとおり承認された。

飯塚委員から、定員確保の見通しについて質問があり、大和田理事から、アンケート調査の結果などから定員の確保はできる見込みである旨回答がなされた。

さらに、飯塚委員から、教員資格審査の可否見通しについて質問があり、大和田理事から、申請後、5月頃に文部科学省から意見伝達がある旨回答がなされた。

## 8 その他

**(1) 米沢女子短期大学の将来構想の基本方向の検討状況について**

馬場理事からその他資料1により説明がなされた。

飯塚委員から、米沢女子短期大学の編入学希望者のうち、進学先が決まらず就職に切り替える学生がどの程度いるのか質問がなされ、馬場理事から、例年、10名前後となっているが、近年、国公立大学だけでなく私立大学へも編入学する傾向がある旨回答がなされた。

黒田委員から、女子短期大学を目指す高校生は減少していく傾向にあり、一方、山形県では若者の県外流出を抑止していきたいという考えがある。幅広く日本学を学べる大学は国内にはない。中長期的なスパンではなく、短期間で「学術探究」、「技能」、「資格」を3本柱とする大学が確立されれば、多くの問題解決に結び付くと思う旨発言がなされた。

これに対し、馬場理事から、日本学といった特殊な学問に対する高校生のニーズや出口の確保などといった問題については調査を実施するまでには至っていない。教員の整理解雇は考えておらず、現状の教員を活かしながら新設学部 of 構想を進めていくには短期間では難しい旨発言がなされた。

黒田委員から、日本学は人文科学系に偏るものではない旨発言がなされた。

種村理事から、将来的に社会情報学科を4年制化した場合、残る3学科で学生を集めるのは難しくなり、また、進学希望者も多くなる。進めるとすれば、1法人2大学2学部・短期大学部であるが、もう少し詰めていく必要がある旨発言がなされた。

これに対し、馬場理事から、社会情報学科が中心になっていく可能性が高いが、残る3学科についても今後議論を重ねていく。最大の問題は高校生をどう集めるのか、出口をどう確保するのかがである。山形県で新しい人間作りができる学部構想を練っていくとともに、短大については2年間の完成教育を目指して短期大学部として残していきたい旨発言がなされた。

黒田委員から、短期大学部では学生の希望を達成していくのは難しいことから、4年制化は今後向かっていく方向といえる。2年間で準学士として卒業することも可能とし、将来復学できるような仕組みを考えても良い旨発言がなされた。

これに対し、馬場理事から、キャリア形成支援を充実させていくためにはマンパワーが重要である。今後、見識者からアドバイスをいただきながら改革を進めていきたい旨発言がなされた。

種村理事から、山形県に人材を残していくためには、企業ニーズを相当集約していく必要がある。短大卒の人材を必要とする企業があることも事実である。こうしたことを短期的方向性の中に組み込み、新たな解を見出す必要がある旨発言がなされた。

宮原委員から、社会的ニーズを捉えてから戦略を立てても遅きに失した感があることから、先取りしていく必要がある。短期大学にせよ、4年制大学にせよ、どれだけの実学を学んできたかが重要になってくる。短期的方向性の中でも実学を伴って展開していくプログラムを考えていくことが必要である旨発言がなされた。

これに対し、馬場理事から、社会的ニーズの捉え方は非常に重要であり、県内企業がどのような人材を必要としているのか、生の声を汲み上げる必要がある旨発言がなされた。

荒井委員から、短期大学部として残すことについては、形としては無難なものに見えるが、短期大学部の売りをどこに求めていくのか。短期大学が必要とされているのではなく、地域に高等教育機関としての短期大学があることで安心感を与えているのであり、それは4年制大学であったとしても同じである。個人的には1法人1大学3学部が最もリアリティがあると考え。短期大学部を残すことによって、それ自体がマーケットを失っていき、ギリ貧に陥ってしまうことが中長期的に暗黙に期待されていることがここから見えてしまう。1法人1大学3学部として、社会人の短期的なエクステンションコースを設けるなどの布石を残せば良いのではないか。新設学部は情報関係の学部と推測されるが、新設学部として売りにできるもの、ニーズに合致したものの、学生を集められるものが何であるのかを検討する必要がある。短期大学部を残すことによって弱みを持ち続けるという印象を受ける旨発言がなされた。

これに対し、馬場理事から、1法人1大学3学部を最初から排除していない。米沢女子短期大学には学生の経済的基盤という問題がある。授業料減免がこれだけ多い大学を他に見たことがない。経済的、学力的に問題のない学生は短大を経由して国公立の4年制大学へ編入学していく。

1法人1大学3学部を柱の中心に据えるには、こういった学生の生の姿を払拭していきながら学内で議論していかないと前に進んでいかない旨発言がなされた。

飯塚委員から、第一志望に合格できなかった学生が編入学により目指していた大学や、さらに上のランクの大学を目指せるチャンスがあっても良い。編入学でも第三志望位まで合格できず、それでも向学心のある学生が県内に残って進学できる大学があっても良い旨発言がなされた。

黒田委員から、米沢女子短期大学には経済的に困窮している学生がたくさんおり、その中でも4年制大学への進学希望者がいる。そういった学生にチャンスを与える大学であって欲しい旨発言がなされた。

## (2) その他

飯塚委員より、学長裁量費を一括りにし、両大学から提案することにより、良い事業に学長が配分することについて検討して欲しい旨発言がなされ、四柳総務企画課長から、教育研究特別推進費として計上されており、大学毎に学長裁量費がある外、理事長裁量費がある旨回答がなされた。

### 【配付資料】

- 報告資料1 平成29年度入試について
- 報告資料2 平成28年度卒業予定者の進路状況について
- 協議資料1 平成28年度 補正予算(案)について
- 協議資料2-1~2 平成29年度 年度計画(案)及び当初予算(案)について
- 協議資料3-1~2 教員(米沢女子短期大学 英語英文学科)の昇任について
- 協議資料4-1~2 教員(米沢女子短期大学 社会情報学科)の昇任について
- 協議資料5-1~5 山形県公立大学法人規程の一部改正及び制定について
- 協議資料6 山形県立米沢栄養大学規程の制定について
- 協議資料7 山形県立米沢女子短期大学規程の一部改正について
- 協議資料8 山形県立米沢栄養大学の大学院設置認可申請について
- その他資料1 米沢女子短期大学の将来構想の基本方向の検討状況について

議長 理事長(兼)学長

議事録署名員

議事録署名員

議事録署名員